

論文の内容の要旨

論文提出者氏名	渡 邊 貴 之
論文審査担当者	主 査 田 中 榮 司 副 査 本 田 孝 行・菅 野 祐 幸
論文題目	Clinical features of a new disease concept, IgG4-related thyroiditis (IgG4 関連甲状腺炎の臨床的特徴)
(論文の内容の要旨)	<p>【目的】IgG4 関連疾患は諸臓器に炎症や線維化をきたす全身性疾患であり、代表的な病変として自己免疫性膵炎、硬化性胆管炎、涙腺唾液腺炎、尿管間質性腎炎、後腹膜線維症がある。我々は以前、自己免疫性膵炎症例において甲状腺機能低下を有意に多く合併することを報告し、また同様の報告は他施設よりもなされている。今回 IgG4 関連疾患で認められる甲状腺機能低下が IgG4 関連疾患に含有されうる病態か検討した。</p> <p>【方法】対象は IgG4 関連疾患症例 114 例であり、主診断の内訳は自己免疫性膵炎 92 例、Mikulicz 病 15 例、IgG4 関連硬化性胆管炎 7 例であった。甲状腺機能低下・甲状腺自己抗体合併頻度、IgG4 関連疾患活動性マーカー、ステロイド治療への反応性、甲状腺画像所見、甲状腺病理所見を後ろ向きに比較検討した。</p> <p>【結果】①114 例中 22 例(19%)に甲状腺機能低下(TSH>4 mIU/L)を認めた。22 例中 11 例は顕在性甲状腺機能低下 (FT4<1 ng/dL)であり、11 例は潜在性甲状腺機能低下 (FT4≥1ng/dL)であった。甲状腺機能低下例では抗サイログロブリン抗体陽性または抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体陽性を半数に認めた。②甲状腺機能低下 22 例と甲状腺機能正常 92 例の血清学的比較では、甲状腺機能低下群において IgG、IgG4、免疫複合体、β2 ミクログロブリンは有意に高値であり、C3 は低値であった。③ステロイド治療前後の TSH・FT4 の評価が可能であった甲状腺機能低下 10 例において、TSH は治療後に有意に低下し($p=0.005$)、FT4 は有意に上昇した($p=0.047$)。④顕在性甲状腺機能低下群、潜在性甲状腺機能低下群、IgG4 関連疾患における甲状腺機能正常群、甲状腺機能が正常な他疾患の 4 群における甲状腺容積の比較では顕在性甲状腺機能低下群の甲状腺容積は他群と比較して大きいという結果であった。⑤IgG4 関連疾患診断時に甲状腺癌が同時に診断された 1 例(甲状腺機能正常)の甲状腺切除検体において、局所への IgG4 陽性形質細胞浸潤(IgG4 陽性形質細胞 185 個/HPF、IgG4/IgG 陽性細胞比 64%)と濾胞構造の消失を認めた。</p> <p>【結論】IgG4 関連疾患にみられる甲状腺機能低下は IgG4 関連疾患の疾患特徴を有すものであり、IgG4 関連甲状腺炎として IgG4 関連疾患に含有されうる病態であると考えられた。</p>